



石橋文化センター・久留米市美術館

イベント・展覧会 スケジュール

EVENT &
EXHIBITION
SCHEDULE

2023



石橋文化ホール
久留米市美術館
石橋正二郎記念館
久留米市立中央図書館

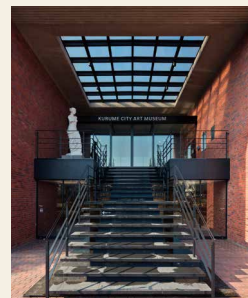
石橋文化センター

石橋文化センターは、1956(昭和31)年に株式会社ブリヂストンの創業者である石橋正二郎名誉市民が建設し久留米市に寄贈した複合文化施設です。バラやツバキなど四季折々の花々が彩る広大な庭園を有し、美術館をはじめ、音楽ホールや図書館などを備えています。花と緑にあふれた園内は、市民の憩いの場として、文化芸術活動の拠点として、多くの人々に親しまれています。



久留米市美術館

久留米市美術館は、前身である石橋美術館の建物と活動を引き継ぎ、2016年11月19日に開館しました。九州ゆかりの洋画家たちの作品を所蔵し、さまざまなジャンルの展覧会や、園内と連携したイベントなどを通して、美術にふれる楽しさを多くの人々に伝えていくことを目指しています。



かなつの花めぐり イベント情報 & マップ

※日程は予告なく変更となる場合があります。



4/下旬 - 5/下旬

春のバラフェア

400品種・2,600株のバラが華やかに咲き誇り、芳しい香りに包まれます。



5/下旬 - 6/中旬

あじさい・はなしょうぶまつり

初夏を彩る花々を楽しめるイベントです。夜は期間限定でホテル鑑賞も楽しめます。



10/中旬 - 11/中旬

秋のバラフェア

秋にも見頃を迎える石橋文化センターのバラ。色が濃く香りが深い特徴があります。

坂本繁二郎旧アトリエ

季節ごとに期間限定で公開します。

久留米市出身の画家・坂本繁二郎のアトリエを、1980年に八女市から石橋文化センター園内に移築・復元したものです。馬や静物シリーズなどは、このアトリエで生まれました。



11/中旬 - 12/上旬

もみじまつり

澄んだ空気の中で紅葉を愛でながら、趣ある時間を過ごしてみませんか。



2/中旬 - 3/上旬

梅まつり

春の訪れを告げる梅の花。140本の梅が見頃を迎えます。



3/上旬 - 3/下旬

つばきまつり

国際ツバキ会議において「国際優秀つばき園」に認定された、260品種・1,500本のツバキをお楽しみください。

P 第2駐車場(有料)



3/下旬 - 4/上旬

SAKURA・チューリップまつり

お花見は石橋文化センターへ。150本のサクラと13,000本のチューリップがお迎えます。



カフェ&ギャラリーショップ 楽水亭

営業時間 10:00 - 17:00
 カフェランチタイム 11:00 - 14:30
 オーダーストップ 16:30

日本庭園を望むカフェでは、季節の御膳や、オリジナルスイーツをお楽しみいただけます。隣のギャラリーショップでは久留米の地場産品やこだわりのセレクト商品を販売。美術鑑賞や園内散策の後に、ぜひお立ち寄りください。

主催事業のご案内

園内では、「石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動」
として、様々なイベントを開催しています。

4/下旬

こどもスケッチ大会

春の花咲く園内で、
スケッチ大会やコンサートを開催します。

7/上旬

七夕ライトアップ

ライトアップした日本庭園で、
涼しげな七夕飾りをお楽しみください。



9月

ガーデンテラスコンサート

夕暮れ時の水辺のステージで、
気軽に楽しむコンサート。



10月

ミュージアムハロウィン

自然豊かな園内で
ハロウィンをお楽しみください。



11月

アートフェスティバル

秋深まる園内で、
様々なアート作品を展示。
夜にはライトアップされた
幻想的な空間に変わります。



12月

ミュージアムクリスマス

園内を彩るクリスマスイルミネーションや
コンサートをお楽しみください。



1/下旬 -

2/中旬

ミュージアムバレンタイン

大切な人と一緒に過ごすバレンタイン。
ワークショップやコンサートをお楽しみください。

石橋文化ホール公演

石橋文化ホール 開館60周年公演

プロの演奏家から市民まで、
音響の良いホールで
様々な公演が行われています。



石橋文化ホール

1963年開館。設計の粋を尽くし、音響効果の良い
ホールとして多くの音楽家から高い評価を得てい
ます。今年度開館60周年。

5/29

[日]

くるめ新人演奏会

6/4

[日]

石橋文化ホール開館60周年 メモリアルコンサート

7/2

[日]

上野通明 チェロ・リサイタル ピアノ：北村朋幹



©Anne Laure-Lechat

8/13

[日]

ドラゴンクエスト コンサート



9月

くるめ音楽祭

吹奏楽祭、合唱祭、アンサンブル・フェスティバル

11/12

[日]

開運！なんでも鑑定団 出張鑑定 in 久留米

12/15

[金]

森山良子 コンサート

17年ぶりの
石橋文化ホール公演を
お楽しみ下さい。



年5回
程度

ミュージアムコンサート in 石橋文化ホール

上質な音楽と、久留米市美術館の
展覧会や石橋正二郎記念館をセッ
トで楽しめるミニコンサートです。



※催事は内容変更・中止・延期となる場合があります。

リアル(写実)のゆくえ

現代の作家たち 生きること、写すこと

2/11_[土] - 4/2_[日]

コレクション ing4

野見山暁治の見た100年

4/22_[土] - 6/4_[日]

1920年に現在の飯塚市で生まれた野見山は、1938年に東京美術学校へ入学し、藤島武二や岡田三郎助ら日本の美術界を牽引した洋画家たちから直接教えを受けました。その後、福岡や東京、ヨーロッパなどに拠点を移して同時代の画家たちと交流しながら制作をおこない、帰国後は東京藝術大学などで後進の指導にも尽力。今なお旺盛な創作活動を続けています。本展では、2021年度に氏から寄贈された8点を含む久留米市美術館所蔵の13点と西日本シティ銀行から寄託中の6点の野見山作品を軸にして、関連作家の作品とあわせて約90点で構成し、野見山が見つめてきた100年にわたる日本近代洋画の展開を辿ります。



野見山暁治《朝の景色》1981年
久留米市美術館

顕神の夢 —幻視の表現者—

村山槐多、関根正二から現代まで



関根正二《少年》1917年
個人蔵

8/26_[土] - 10/15_[日]

人知を超えたどこかから「何か」がやって来るといった感覚や霊的な体験を創作のモチベーションとする表現者たちがいます。本展では、彼らの心情を仮に「顕神の夢」と名付けます。

アーツ・アンド・クラフツとデザイン

ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで

6/17_[土] - 8/17_[木]

手仕事と生活が結びつく「ものづくり」の時代を理想としたウィリアム・モリス。その思想は「アーツ・アンド・クラフツ運動」と呼ばれる潮流を生み、19世紀から20世紀にかけてヨーロッパへ、そして北米へと国境を越えて広がりました。機能と美を意識する造形思想は美術工芸の枠にとどまらず、インテリアや家具調度をはじめとする様々な産業にも浸透して私たちのライフスタイルに影響を与えています。本展ではモリス商会やリバティ商会、ティファニー・スタジオからフランク・ロイド・ライトにいたるまでの約170点で、モダン・デザインの原点としての「アーツ・アンド・クラフツ運動」の多彩な展開を紹介します。



ウィリアム・モリス (モリス商会)
《いちご泥棒》1883年
木版、色刷、インディゴ抜染、木綿



ティファニー・スタジオ
《三輪のリリーの金色ランプ》1901-25年
金メッキ・ブロンズ、ファブリル・ガラス
Photo©Brain Trust Inc.

本展でとりあげる表現者の中には、神の姿を無心に映し出す者、幻視体験を作品化する者、目には見えない「光」を色彩で表そうとする者、自らの内に宿る神仏、あるいは魔を作品として定着させようとする者、そしてわれわれの生きる世界に対し異次元の視点をもつ者がいます。本展では、彼らの作品をそれにふさわしい尺度、いわば「霊性の尺度」で見直すことで、それらがもつ豊かな力の再発見、再認識を試みます。

芥川龍之介と 美の世界

二人の先達 —
夏目漱石、菅虎雄

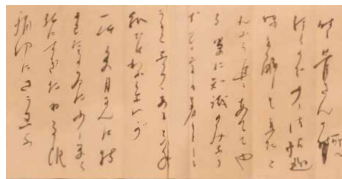
2024.
10/28^[土] - 1/28^[日]



中原悌二郎
《若きカフカス人》
1919 年
ブロンズ 新潟大学

今もなお広い世代に人気の作家の一人である芥川龍之介（1892-1927）は、作品や書簡等においてしばしば美術に言及しています。彼の文学も美術と深く関わるという点で夏目漱石（1867-1916）と共通しているのです。芥川は晩年の漱石に才能を見出され、漱石を師と仰ぎました。久留米出身の菅虎雄（1864-1943）は、芥川的第一高等学校時代のドイツ語の先生であり漱石の親友でもありました。彼はまた漱石と芥川から書家として一目置かれる存在でした。本展では、芥川と美術の関わりを軸に、芥川の文学世界と彼の眼を通した美術世界を紹介するとともに、芥川と漱石、漱石と菅、菅と芥川の三人の交流関係にも注目します。

■公益財団法人石橋財団特別助成



芥川龍之介《松岡譲宛書簡》
1916 年 12 月 17 日
新宿区立漱石山房記念館

1F 展示室 展覧会紹介

青木繁記念大賞ビエンナーレ(第7回) 7/1^[土] - 7/30^[日]

久留米出身の洋画家・青木繁を顕彰し、作家の創作意欲を奨励する全国公募の洋画美術展で、入賞・入選作品約90点を展示します。本展は今回で最終回を迎えます。作家の熱意そして創意あふれる作品をぜひご鑑賞ください。

[応募受付 4/1-4/30]

第6回展大賞
中原未央《inside-T (I)》

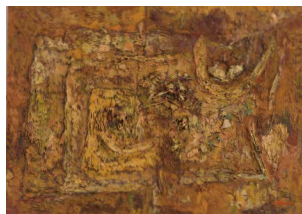


ちくごist 尾花成春

~~2/10^[土] - 4/14^[日]~~ → 4/20^[土] - 7/7^[日] (予定)

※美術館外壁工事等のため延期

青木繁や坂本繁二郎らを育んだ久留米および筑後の土地にゆかりのある作家・作品を紹介するシリーズ企画「ちくごist」の第一回。尾花成春（1926-2016）は、現在のうきは市に生まれ、独学で絵を学びました。第二次世界大戦中に上京しますが、終戦後に帰福してからは、制作の拠点を筑後から動かすことはありませんでした。仕事をしながら制作活動を行い、福岡県展や自由美術展に入選。とりわけ前衛美術団体「九州派」での活躍や、15年以上描き続けた「筑後川」のシリーズがよく知られています。本展では、残された作品と資料を中心に、ひたすら筑後で制作することにこだわった画家・尾花成春の全貌を紹介します。



尾花成春《黄色い風景》1958 年
久留米市美術館

石橋正二郎記念館

石橋正二郎記念館は、開園60周年を記念して公益財団法人石橋財団によって整備、久留米市に寄贈され、久留米市美術館と同日に開館しました。展示室では石橋文化センターの変遷や、石橋正二郎の歩みや人となり、社会的・文化的事績を紹介しています。

作品展示コーナー 石橋財団コレクションから、石橋正二郎や石橋文化センターに関連する作品を選び、常時4～5点の作品を展示しています。

2/11^[土] - 4/16^[日]
21 期 石橋正二郎のコレクションの始まり
4/22^[土] - 8/20^[日]
22 期 石橋正二郎と豊田勝秋
8/26^[土] - 10/22^[日]
23 期 正二郎の生きた時代—
1906 家業をつぐ

10/28^[土] - 2024.2/4^[日]
24 期 正二郎の生きた時代—
1923 地下足袋販売
2/10^[土] - 4/7^[日]
25 期 正二郎の生きた時代—
1930 国産タイヤ製造

6/13^[火] - 6/16^[金] は館内点検のため休館



美術館開館カレンダー

月曜・年末年始休館日 展示替休館日 石橋正二郎記念館のみ開館 無料入館日

4							5						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1		1	2	3	4	5	6
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31			
30													
6							7						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2							1
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29
							30	31					
8							9						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30
10							11						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7					1	2	3
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30	11/19 開館記念日 無料入館日	
12							1						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2			1	2	3	4	5
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31			
31													
2							3						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2						1	2
4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9
11	12	13	14	15	16	17	10	11	12	13	14	15	16
18	19	20	21	22	23	24	17	18	19	20	21	22	23
25	26	27	28	29			24	25	26	27	28	29	30
							31						

石橋文化センター 開園時間 9:00 – 17:00
(園内のみ5/1-9/30は19:00まで延長)
石橋文化ホール・
石橋文化会館・
文化センター共同ホール
入園無料 園内年中無休*
Tel 0942-33-2271 Fax 0942-39-7837
*石橋文化ホール・石橋文化会館・文化センター共同ホールの
休館日:月曜日(祝日・振替休日は開館)、年末年始(12/28-1/3)

久留米市美術館・
石橋正二郎記念館
開館時間 10:00 – 17:00
(入館は16:30まで)
入館料 久留米市美術館: 展覧会毎に料金設定
15名以上で団体割引あり
*身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳又は療育手帳等の
交付を受けている方とその介護者1名は無料。
石橋正二郎記念館: 高校生以下無料
一般/大学生 300円
*久留米市美術館入館券のご提示で入館無料になります。
休館日 月曜日(祝日・振替休日は開館)、年末年始(12/28-1/3)
展示替休館 *詳細は美術館開館カレンダー参照
Tel 0942-39-1131 Fax 0942-39-3134

久留米市立中央図書館 開館時間 10:00 – 20:00 (火～金曜日)
10:00 – 18:00 (土・日・祝)
休館日 月曜日(祝日・振替休日は開館)、毎月第4木曜日
年末年始(12/28-1/4)、特別整理期間
Tel 0942-38-7116 Fax 0942-38-7183

アクセス
↑博多 ↑福岡(天神) 筑後川 ↑福岡
JR久留米駅 陸上競技場 野球場 国道210号線 久留米アリーナ 久留米インター
久留米市役所 福岡県青少年科学館 国道322号線
←佐賀 久留米シティプラザ 西鉄久留米駅 九州自動車道
↓熊本 ↓大牟田
石橋文化センター
久留米市美術館
石橋正二郎記念館

私たちは石橋文化センター・久留米市美術館の事業を応援します。
スペシャル
パートナー BRIDGESTONE
オフィシャル
パートナー 久留米大学 筑邦銀行
株式会社 森光商店 For your smile 喜多村石油株式会社
株式会社 ユー・エス・イー

楽しみと幸福の時間。
石橋文化センター
公益財団法人久留米文化振興会
839-0862 福岡県久留米市野中町1015
Tel 0942-33-2271 Fax 0942-39-7837
https://www.ishibashi-bunka.jp